

【教科関係】

評価項目		具体的目標	具体的対策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	国語	1年 現代文では漢字力と語彙力を、古典では文法・句法を中心に、基礎力を確立させる。	計画的に漢字と古文単語の小テストを実施し、大学受験にも対応できる語彙力をつけさせる。	A	A	古典分野における文法事項定着のための計画性と今年度同様の言語活動の充実
			ICTなども活用し、論理的に文章を読解する姿勢を育てる。	A		
			文法と句法を段階的に学ばせ、古典に対する基礎力を育成する。	B		
		2年 現代文・古文・漢文のそれぞれの応用力を育成、進展させる。	各分野を計画的に学習させ、基礎から応用へのステップアップを図る。	B	B	小説分野の強化。古典分野における文法事項の定着及び基礎から応用へ向かうための計画性
			小テストを定期的実施し、さらなる語彙力の安定を目指す。	A		
			授業や考査の中で大学入試を意識した問題の扱いを徐々に増やし、受験に対応できる学力を身につけさせる。	B		
		3年 現代文、古文、漢文の受験に対応した学力を完成させる。	受験を意識した授業の実践を心がける。	A	B	古典分野を中心に3年間を通じた指導の流れの構築。二極化を防ぐための働きかけ。
			小論文や評論に対応した、幅広い知識を身につけさせる。	B		
			知識問題について的小テストを定期的実施し、入試に対応する実践力を高める。	B		
教科	地歴公民	授業中心主義を徹底し、学力の向上を図る。	シラバスに基づき、担当者間の連携を図りながら、計画的かつ効果的な授業展開を通じて学力の向上を図る指導を行う。	B	B	新科目（公共・歴史総合）の指導法をさらに研究する。
			授業内容を精選し、基礎・基本的事項の習得を徹底させるとともに、発展的な内容を扱う授業展開を行う。	B		
			他教科とのバランスを取りながら、適切な内容・分量の課題に取り組みせ、必要に応じて小テストを実施して、授業に対する理解度の確認と学習習慣の確立を図る。	A		
			定期考査・校内実力テスト・校外模試の成績分析を通じて、学習内容の習得状況を的確に把握・分析して指導の改善を図り、結果を生徒へフィードバックする。	B	B	3観点による評価方法をさらに研究する。
			教科担当者が必要に応じて個別面談・個別指導を行い、指導・助言を通じて学習効果の向上を図る。	A		
			資料集など副教材の使用法を工夫し、生徒の興味・関心を喚起し、理解の進化に努める。	B		

		興味・関心が持てる授業に努める。 共通テストで高得点を達成するとともに、難関大学に合格できる学力をつける。	BYODの導入にともない、ICT機器を活用した授業を推進する。	B	B	オンラインでの授業の進め方の共有をさらに進める。
			授業公開や教科会等を通じて、相互の指導方法について情報交換を行う。	B		
			過去のセンター試験問題や共通テスト試行問題等ならびに大学入試問題等を十分に研究し、学習指導の改善を図る。	A		
教科	数学	1年 様々な数学的な見方考え方を学び、数学に対する関心・意欲を高め、学習習慣および高等学校数学の基礎を固める。	日々の授業においては、内容を精選し基礎の確実な理解と定着を図る。	A	A	観点を意識した指導とその評価 思考力・表現力を問われる問題への対応
			デジタル機材を通して、教材を表示したり、課題配布を行う。	A		
			授業と連携した宿題を定期的に課し、家庭における学習習慣と基礎学力の確立を図る。	A		
			定期的に小テスト、章末テスト等を企画し、基礎学力を評価するとともに、そこで得た情報を基に弱点の強化を行う。	A		
		2年 科目の重要性を意識させ、きめ細かい指導の下、授業内容を確実に定着させる。	学習に取り組みやすく、理解を深められるように授業展開や進度の工夫をする。	A	A	
			年間を通じて、精選した課題を与え、生徒の取り組みを徹底させる。	A		
			授業進度に合わせ定期的に章末テストを実施し、基礎学力の定着と向上を図る。	B		
		3年 生徒の進路実現に向け、大学入試に対応した学力を完成させる。	大学入試を意識した授業の実践に心掛ける。	A	A	
			各テストを通して、大学入試に向けた計画的な学習を支援していく。	A		
			各分野の問題演習を行うことにより、大学入試に対応できる能力を養う。	A		

教科	理科	授業内容を深化させ、各生徒が希望進路を実現できる基礎学力の向上を図る。	シラバスに沿った授業展開を心がけ、担当者間のコミュニケーションを図り計画的な指導を行う。	A	B	B	生徒の能力と進路希望に応じた課題内容の設定と指導
			生徒にとって適切な内容・分量の課題を行わせることや、小テストを通して学習習慣の確立を図る。	B			
			必要に応じ、各科目の担当者が個別の面談・指導を行い、学力の向上を図る。	B			
	自然や自然現象に対する興味・関心を高め、知識の活用能力を高める授業展開に努める。	観察・実験をバランスよく実施し、実物に触れることにより、興味・関心を喚起し、基礎的概念理解の深化を図る。	A	B	B	SSH事業や大学・研究機関と理科との連携のあり方	
		SSH事業と連携し、日常現象と科学との関連を取り上げることにより、科学への興味・関心を高め、知識の活用を促す。	B				
		ICTを活用してシミュレーションや視聴覚教材を効果的に提示することで、授業への興味・関心を高め、より深い理解を促す。	B				
教科	保健体育	各種の運動の合理的な実践及び相互理解・尊重の態度を育む。	自己の体力や生活に応じた体力を高めるための運動を合理的な方法で身につけさせる。	A	A	A	コロナによる休校で体力の低下が危惧される。今後も柔軟に対応できるように準備する。
			各種の運動の合理的な実践を通して自己の課題を見つけ、解決できる能力を身につけさせる。	B			
			各種の運動を通しての相互理解・尊重の態度を身につけさせ、コミュニケーション能力を育てる。	A			
			熱中症や怪我を防止するため、安全管理に留意して授業を行う。	A			
	健康に対する意識・実践力を育む。	健康に対する知識や実践力を養い、課題解決能力を身につけさせ、明るく豊かで活力ある生活を育む態度を育てる。	B	A	A	コロナ禍において健康や安全管理などへの意識は高まってきたと感じられるが、社会の変化に伴う新たな健康課題に対応した更なる教育が必要。	
		社会生活及び各個人の生活における健康・安全管理について、課題の解決に役立つ基本的な知識を理解する。	A				
教科	芸術	芸術を愛好する心情を育てるとともに、芸術の諸能力を伸ばし芸術文化についての理解を深める。	表現及び鑑賞の活動において、ICTを効果的に活用する	A	A	A	コロナ禍において表現領域における技能面の指導と協働学習の方法について考慮する
			多様な芸術表現を経験する中で、他者と協働しながら表現を生み出したり、表現するための技能を身に付ける。	B			
			日本や諸外国の芸術作品を鑑賞し、理解を深める。	A			

教科	外国語	1年 英語に対する意欲及び興味・関心を高め、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4領域について基礎学力の定着を図る。	毎週単語小テストを実施し、基本的な語彙を身につけさせる。	A	B	リスニングについては課題が残るが次年度に生かしていく。	
			基本的文法事項を習得させ、英文を読む力と書く力を培う。	B			
			授業や家庭学習でリスニングの指導に力を入れ、英語を聞く力を養	B			
			A L Tとのチームティーチングを通して、話す力やコミュニケーション能力を育てる。	B			
			外部英語検定受験を奨励し、CEFR A2レベル（英検準2級以上）の力を身に付ける。	B			
			ディベート活動を通して、思考力と表現力を身につけさせる。	B			
	2年 基礎力の増強および応用力育成・向上に努め、生徒をより高い目標へと鼓舞する魅力的なわかる授業を展開する。	基礎力の増強および応用力育成・向上に努め、生徒をより高い目標へと鼓舞する魅力的なわかる授業を展開する。	小テストを継続し、基本的な語彙を定着させる。	A	B	B	家庭学習の定着と基礎力の強化
			基本文法事項に習熟させ、英文を読む力と書く力を高める。	B			
			授業や家庭学習でリスニングの指導に力を入れ、英語を聞く力を養う。	B			
			授業中のスピーキング活動を通して、話す力やコミュニケーション能力を育てる。	B			
			英検受験を奨励し、2級および準1級の合格を目指す。	B			
	エッセイのオンラインによるネイティブ・チェックを継続して受けることにより、英語の運用能力と思考力を高める。	A					
	3年 生徒の希望進路の実現に向け、受験に対応した学力を完成させる。	生徒の希望進路の実現に向け、受験に対応した学力を完成させる。	平常の授業において、受験に対応した総合的な学力を高めさせるとともに、新しい入試形式を研究し、対応できる英語力の育成を図る	A	A	A	外部4技能検定取得の徹底
			各テストを通して、受験に向けた計画的な学習を支援していく。	A			
			生徒の状況に応じた課外授業及び個別指導を実施する。	A			
			授業・指導法の研究に努め、平常授業の充実を図る。	A			

教科	家庭科	家族や家庭生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。	実生活に即した具体例の提示や実践活動を通して、家庭のあり方や家族関係についての基礎基本を習得する。	A	A	A	実験実習を増やし生徒により多くの体験学習をさせることで実生活に即した基礎基の家庭科力を身に着けさせる。BYODのより一層の活用を通し効果効率の高い授業実践、いかなる状況においても学びを止めない仕組みづくりを目指す。	
		家庭や地域の生活上の課題を見つけ解決する能力を育成する。	生活の中心から課題を発見し、解決するための事例研究を行い、学びを深める。	B	A			
			ホームプロジェクトの実践を通して様々な討論法による自己表現力の向上と自己理解を通しての課題解決を図る。	A				
		生活の充実向上を図る力と実践的な態度を育成する。	ICT機器等を利用し、事例や演習の充実を図り、生徒が主体的に取り組む態度の育成を図る。	B	B			
			実生活に即した実践的・体験的学習を通して、一人で生活する能力を習得する。	A				
		教科	情報	生徒のICT活用能力を育て、それらを積極的に問題解決に活用しようとする態度を身に着けさせる。	GoogleSuiteの機能を活用した問題解決の授業を実践する。			A
プログラミングとそれをを用いた問題解決の授業を実践する。	A							
いばらきプログラミング・エキスパート事業に生徒を参加させ、学習した知識を活用、応用する態度を育てる。	B							
生徒に情報技術や情報社会について理解させ、様々な場面で適切な判断や行動ができるようにする。	情報技術に関する本質的で深い理解を促す授業を実践する。			A	B	B	より実践的な指導内容を取り入れる	
	ネットワークや暗号技術、人工知能等に関して、理論と実践および社会とのかかわりについて学ばせる。			B				
	個人情報や知的財産権、情報モラルに関して、社会での諸問題と、自己とのかかわりを考えさせるような授業を実践する。			C				
生徒の探究活動に必要な資質、および能力を育成し、社会参画の意欲および起業家精神を育てる。	和算の探究を通じて探究活動の技術を身に付ける。			A	B	B	探究的活動の充実 クロスカリキュラムの実施	
	文献調査、データ分析、レポート作成の授業を実践する。			B				
	社会問題の解決や経済活動に情報技術が活用されている事例について学ばせ、課外活動や探究活動に活かさせる。			C				

【学年】

評価項目	具体的目標	具体的対策	評価		次年度（学期）への 主な課題
第1学年	基本的生活習慣の確立	挨拶の励行、清掃の徹底、時間厳守、期限厳守等の凡事徹底を図るべく、学年全体として共通認識を持ち、常に生徒状況を確認しながらきめ細かな指導に取り組む。	A	A	凡事徹底の継続
	基礎学力の定着と自立学習の充実	初期指導の充実を図り、授業を中心とした予習復習のサイクルが確立できるよう、授業およびホームルーム・学年集会を通して継続的な指導に取り組む。	B	B	手帳の活用を通じたPDCAサイクルの徹底
		生徒が授業内容をしっかり定着できるよう、各教科で連携して課題の量を調整するとともに、ICT端末を活用した学びを積極的に取り入れて、学習意欲と協働的学習の質の向上を図る。	A		
		手帳を活用しながら、自主的に計画を立て行動する力を身につけさせる。	B		
	進路指導の充実	LHRおよび道德の授業を中心として、進路意識が高められるように年間計画を立案し、将来の目標や職業観などを育む指導を行うとともに、2年次の文理コース選択に対して適切な指導を行う。	B	B	具体的な将来像をイメージさせる進路指導の充実
		進路指導部やSSH部、国際交流委員会と連携し、生徒の進路目標の設定に意義のある行事を企画・実施する。	B		
		生徒の勤労観・職業観を育むために、卒業生やPTAと連携した講演会を企画・実施する。	A		
	心身の健康管理	生徒一人一人の心身の成長とともに、健康的な学校生活が送れるよう、保健部やスクールカウンセラー、保護者と連携しながら、生徒個々の問題の早期発見に努め、適切な指導を行う。	B	B	複数教員で対応できる体制づくり

第2学年	基本的な生活習慣の確立	挨拶の励行、清掃の徹底、容儀指導の徹底、時間厳守、期限厳守等の凡事徹底に加え、部活動と学習の両立をはかり平日2時間・休日3時間以上の学習時間を確保できる生活習慣・学習習慣を身につける。	B	B	B	挨拶指導に力を入れなかったため挨拶できない生徒が増えた。課題提出の期限厳守を前期のうちに完成させたい。
	学習習慣の確立と基礎学力の定着	授業を中心とした予習復習のサイクルの確立と家庭学習時間の確保ができるよう、授業およびホームルーム・学年集会を通して継続的な指導に取り組む。	B	B		学習時間は確保できているが学習時間の固定できている生徒は少ない。毎日同じ時間に学習できる習慣を指導したい。手帳の活用は不十分であった。入試までのスケジュール管理に活用したい。
		生徒が授業内容をしっかり定着できるよう、各教科で連携して課題の量を調整するとともに、ICT技術を活用し、生徒の課題への取り組みおよび定着が徹底されるように指導する。	B			
		手帳を活用しながら、主体的に計画を立て行動する力を身につけさせる。	C			
		文系理系を問わずすべてのコースにおいて進路・学校行事に合わせた探究活動に取り組みせ、論理的思考力、問題解決能力を向上させる。	B			
	進路指導の充実	LHRや進路行事などを通じて自分の進路希望を具体化させ、大学の学部・学科研究やRガイダンス等を通じて進路意識を高める。	A	B		コロナ禍でオープンキャンパスなどが不十分であった。代替となる効果的な行事を企画する必要がある。
		進路指導部と連携し、入試改革に伴う各大学の入試情報の収集・生徒、保護者への提供を徹底し、生徒・保護者が安心して大学受験に臨めるよう配慮する。	B			
		進路指導部、SSH委員会、国際交流委員会と連携し、生徒の進路目標設定に意義のある行事を企画・実施しながら、将来グローバルに活躍する人材育成に努める。	B			
	心身の健康管理	生徒一人一人の心身の成長とともに、健康的な学校生活が送れるよう、保健部や保護者、スクールカウンセラーと連携し、生徒個々の問題の早期発見に努め、適切な指導を行う。	B	B		スクールカウンセラーを増やしてもらいたい

第3学年	学力の向上	2年次までの取り組みを継承し、予習・授業・復習のサイクルの重要性を踏まえながら、さらに発展的学習に自主的に取り組む姿勢を養う。	B	B	B	休校などの不測の事態にも直ちに対応できるオンライン体制の確立
		各教科で、年度当初から入試を意識した指導を行い、適切な時期に、適切な課題・指示を与えるように努め、学年教科担当者が相互に連携をとりながら、学習意欲の向上を図る。	A			
		定期考査・模擬試験の結果分析、大学入試問題の出題傾向の分析結果を授業に反映させ、授業内容の充実を図るとともに、受験勉強のペース・指針を生徒に示し続ける。	B			
	基本的生活習慣の確立	最上級生として、後輩の模範となるよう規律ある生活に努め、学校行事や部活動において、それぞれの持ち場で中心的役割を果たせるよう支援する。	B	B	B	手帳の管理と受験計画が連動するように工夫する
		手帳を活用しながら、学習を中心とした毎日の生活習慣を自己管理させるとともに、長期的な目標にむけて自主的に計画を立て行動できるよう支援する。	B			
	進路指導の充実	生徒の学習成績や進路情報を学年で共有し、生徒や保護者に有効に提供できるようにする。	B	B	B	探究活動などの校内外の主体的活動の推奨（主体性評価の意識）
		LHR、学年集会、講演会等を通して、入試や志望校の研究に努め、目標に向かって邁進する環境・雰囲気醸成する。	A			
		生徒との面談や保護者との意思疎通を密にし、必要に応じて学年外の職員の協力を得ながら、適切な進路指導ができる態勢をつくる。	B			
	心身の健康管理	生徒が心身ともに健康な学校生活を送れるように留意し、生徒の問題の早期発見に努め、教育相談部や養護教諭、保護者と連携しながら適切な支援を行う。	A	A	A	カウンセリングの機会の充実